

## 学校紹介

三重県立特別支援学校 北勢きらら学園

肢体不自由部門の特別支援学校



・所在地

四日市市下海老町

・校区

三重県北勢地域

(いなべ市、員弁郡、

桑名市、桑名郡、

四日市市、三重郡)



・小学部・中学部・高等部  
それぞれの棟があります。

・管理棟と職業棟は2階建て  
他は1階建てです。



・6台のスクールバス  
があります。藤原・多  
度・桑名・菰野・四日  
市南・四日市東

・自家用車で送迎の  
児童生徒もいます。

## 学校のユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインとは、

「すべての人のためのデザイン」を意味し、年齢や障がいの有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインすること

リフト付きやノンステップのスクールバス



手すり付きの広い廊下



玄関ホール



入り口は自動ドア・広くて車椅子が通りやすい

スロープやエレベーター



教室



安全のためにセラピーマットが敷いてある

## 北勢きらら学園での学習

児童生徒が使いやすい教材・教具等で教科や自立活動(※)の学習をしています。

(※)自立活動とは、自立を目指して、障がいによる学習上や生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組みを促す教育活動です。

学習のための教材・教具



運動で使用するフィジオロール



点字の本



色や形の弁別・手の操作



録音できるスイッチ教材



SRCウォーカー(ぬいぐるみのように乗って前進します)

からだを使った学習に使用する道具は、ホームページ内の「支援具紹介」にも、掲載しています。

## 北勢きらら学園の交流及び共同学習

「交流及び共同学習」に対する願い

きらら学園と相手校の児童生徒が、共に学ぶことを通じて、社会で豊かに生きることにつながる。

「交流」とは、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする。

「共同学習」とは、教科等のねらいの達成を目的とする。

保護者から、「交流後に近くの公園で会ったときに、声をかけて名前を呼んでもらい嬉しかった」という声を聞かせていただきました。

普段は、違う学校で学習している児童生徒が、交流という一緒に過ごす機会を通して、互いを知ることにつながった場面の一つです。交流が有意義な時間になることが、地域での関わりに広がることを願っています。

お互いの理解を深めることを目的として行います。

同じ社会に生きる人間として、お互いを正しく理解し、共に支え合って生きていくことの大切さを学ぶ場にしていきたいです。

## 居住地校における交流及び共同学習

○住んでいる地域の同年代の子どもたちと活動を共にし、人間関係を広げることができます。

○お互いを認め合い、共に助け合って、支え合って生きていくことの大切さを学びます。

<交流校>希望する児童生徒の居住する小中学校

・年間の回数を決めて実施

<交流内容の紹介>

- ・生活 ビニール飛行機遊び
- ・体育 ルールを工夫したタグラグビー・ダンス
- ・国語 スクリーンを使用しての学習発表会
- ・図工 作品作り
- ・音楽 楽器演奏
- ・きららの学習 スイッチ教材の紹介・手指の体操
- ・休み時間 飼ってる生き物や図工作品を鑑賞

<交流時の様子>

- ・相手校の教員に交流について話題にしてもらっていることで、交流学級の教員以外からも声をかけられた。
- ・相手校の児童から、「次はいつ来るの」と楽しみにする声が聞かれた。
- ・休み時間に、教室移動のため、児童生徒が座っていない車椅子を進んで運ぶ姿があった。

## 学校間における交流及び共同学習

○社会性や豊かな人間関係を育成することができます。

○障がいに対する理解と認識を深め、共に助け合い、支え合っていくことの大切さを学びます。

<交流校>近隣の学校と実施しています。

- ・四日市市立県小学校
- ・四日市市立大池中学校／  
四日市メリノール学院中学校
- ・県立朝明高等学校／県立四日市中央工業高等学校

<交流内容の紹介>

- 小学部
  - ・小学校児童が本校に来校し、各教室にて学習をした。
  - ・本校児童が小学校を訪問し、クラス毎で学習をした。
- 中学部
  - ・中学校における生徒会の役員が本校に来校し、教室にて学習や作品を交流した。
- 高等部
  - ・互いの学校で代表生徒を決めて、内容を企画した。
  - ・高等学校の生徒が本校を来校し、体育館での全体交流および教室での学習をした。
  - ・互いの文化祭に参加した。

\* 感染症対策のため、作品交流等をした年もありました。